備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			昭和46年度～	根拠法令・例規等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2、第8条
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	環境課
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり	職・氏名	衛生係長・古松健二
	小項目	施策	15 し尿処理	電話	64-1821
事務事業名			01 し尿処理施設維持管理事業	このシート作成に要した時間	1.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市内のし尿・浄化槽の汚泥処理が必要な市民・市内事業者
目的（何のために）	し尿及び浄化槽汚泥を効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	許可業者によるし尿の収集運搬の指示。 し尿及び浄化槽汚泥を適正かつ効率的に処理するために、施設の維持管理を行う。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
し尿処理施設維持管理事業	備前・日生地区で収集されたし尿及び浄化槽汚泥を処理するため、し尿処理施設を維持管理する	◎
岡山県し尿処理施設協議会負担金	県内のし尿処理施設で組織された協議会の負担金	○

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	30,103	29,632	40,840
	必要人員 人件費	千円	3.39人 26,138	3.52人 28,744	3.10人 25,436
	事業費計	千円	56,241	58,376	66,276
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	56,241	58,376	66,276
受益者負担比率		%			－

結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標 し尿及び浄化槽汚泥処理量		説明	衛生センターに搬入されたし尿及び浄化槽汚泥量		
	結果指標量	KL	11,363	11,603	11,413
	対前年比	%		102.1%	98.4%
	活動コスト	円	56,241,000	58,376,000	66,276,000
	単位当たりコスト	円	4,949	5,031	5,807

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
１ｋｌ当りの処分費	目標値（A）	5000	5000	5,000	5,000
	実績値（B）	4949	5031	5,807	到達目標値
	達成率（B/A）	98.98%	100.62%	116.14%	4,500

成果指標設定の考え方・式や説明

し尿及び浄化槽汚泥処理量/処分費用

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- 必要性
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- 市民ニーズ
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
  - ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**A**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☐ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☐ 成果指標の設定は適切である
  - ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☑ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
  - ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○	○				

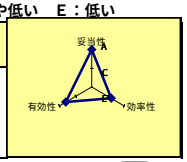
説明：処理施設の運営にあたっては、施設更新時までコストの削減に努め維持管理を行う。
施設の老朽化に対し施設更新としての衛生センターを汚泥再生処理センターとして基本計画の作成、環境影響調査を実施し事業を進める。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量はさらに減少すると予測されるが、法令に基づき今後も適正な処理を行う必要がある。処理施設の運営にあたっては、コストの削減に努めているが、単位当りの処理コストは年々増加している。
処理施設の老朽化は長年の課題であり、施設更新のための方針を平成22年度に決定。H23年度には基本計画の作成や環境影響調査を実施し、平成24年度は実施計画の作成、平成25、26年度で工事等、順次計画を前進させる必要がある。

評価区分 <A～E>：**B**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○	○				

取組目標：整備方針により循環型社会形成推進交付金制度を活用し、汚泥再生処理センターとして、実施設計の策定を行う。
法令に基づき今後も適正な処理を行う必要があるが処理施設の運営にあたっては、コストの削減に努める。